



感謝の気持ちをもとう

2022年も残すところあと1ヶ月となりました。やっと収まりかけていたと思った新型コロナウイルスの感染がまた拡がり始めています。第8波になるそうですが、ピークが12月～1月ぐらいになるのではないかと予想されています。なかなか落ち着かない状況ですが、来年は明るい年になってほしいですね。

さて、毎年、子供たちには「心掛けてほしいこと」として5つの話をしてきました。

- 1 あ「明るいあいさつ」をしよう
- 2 か「感謝する気持ち」を忘れないようにしよう
- 3 じ「時間を守る」こと
- 4 そ「掃除をしっかり行う」こと
- 5 チャ「何にでも積極的（チャレンジ）に」取り組もう



12月のお話し集会では、あいさつ、清掃、感謝の気持ちについて話しました。

「まわりに人がいてくれる。ご飯を食べることができる。住む家がある。普通に生きていくことができることはいろいろな人に支えてもらっているからです。周りの人や物に感謝しよう。そして12月は大掃除。平安時代から続く日本の伝統行事です。身の周りをきれいにして1年を締めくくろう」という話をしました。

先月26日に、上尾市青少年健全育成推進大会がありました。その中で「オール1の落ちこぼれ、教師になる～いじめ、引きこもり、天涯孤独の絶望を乗り越えて～」という演台で宮本延春氏による講演がありました。その中で子供に接するにあたり、あたりまえのことがあたりまえに出来る事に、感謝の気持ちを持てるようにすることが大切だとの話がありました。1日に5回は「ありがとう」が言えるようにした方が良くとのこと。誰もを感じる事だと思いますが、「ありがとう」と言われて嫌な気持ちになることはほとんどないですね。逆に少し良い気持ちになりますね。そうであれば使わないのはもったいない。物事や人に対してありがたいと感じる気持ちをもって一年をしめくくりたいですね。

【宮本延春さん】 1969年、愛知県に生まれる。小学生のときいじめで学校嫌いになり、落ちこぼれて高校へは進学できず。中卒で見習い大工に就職。16歳で母を亡くし、18歳で父を亡くし天涯孤独の身となり自分の人生を模索する。23歳でアインシュタイン博士の番組をみて、物理学に興味を持ち独学で勉強を始める。24歳で定時制高校へ進学し、27歳で名古屋大学に合格。大学院まで進み、9年間物理の研究に没頭する。その後、高校教師となる。